

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
1	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業 (アウトドアチェアキット 制作)
事業費		270,000 円 (うち支援金: 250,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

北相木産カラマツを活用して製作することにより、地元産材を効果的に活用するとともに、地元産材の魅力を県内外にアピールする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木村 長者の森他

(2) 対象者 来場者

(3) 実施方法

長者の森で開催されるフェスティバルや小学校の授業で、地元木工職人に協力してもらい、制作を行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~34 年度)

簡単に制作でき、かつ日常生活でも使用できるもの(ブックスタンド etc)をキット化し制作したい。

②平成 30 年度実績

アウトドアチェア 50 脚



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・カラマツ材を利用することで森林整備を促進させ、多面的な公益的機能を発揮できる森林づくりへの理解を深められた。
- ・村民及び県内外観光客に対するカラマツ材の魅力の訴求や、カラマツ材利用の意義についての理解浸透してもらえた。

(2) 継続性

- ・地元産カラマツを利用することにより、木製品としての価値を再認識してもらえた。

(3) 普及性

フェスティバルには県外からの来場者も多く、北相木産カラマツのPR活動に最適であった。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・実用性の高いアウトドアチェアということもあり、50セットのうち45セットを制作体験してもらえた。来場者からは「手触りが良い」「カラマツでもアウトドアチェアが作れるのか」「来年はどんなものが作れるか楽しみ」との声が聞かれた。

(2) 課題

- ・年に一度のイベントだけではなく、ほかのイベントにも参加し、実際にカラマツに触れ合える機会を増やしていきたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

- ・今後も多くの人がカラマツに興味を持ってもらえるように制作キットの種類を増やしていきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	北相木村
------	------

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	木質化推進事業(丸太ベンチ 制作)
事業費		216,000 円 (うち支援金: 185,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

公共施設(小学校等)に配置することにより木の質感や良さを体感すると同時に、森林の多面的な公益的機能及び地元産材を積極的に利用することの意義を理解してもらおう。北相木産カラマツの需要を増加させることで、森林所有者や林業事業者が意欲的にカラマツ林の更新に取り組めるようにする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木小学校 他

(2) 対象者 小学生 他

(3) 実施方法

・北相木産カラマツを使用した学校備品を制作し配置した。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~34 年度)

小学校の木質化、木製備品の設置

②平成 30 年度実績

木製ベンチ 4 脚



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

- ・木製品にふれあうことにより、子供たちの木材・林業への関心が高められた。

(2) 継続性

- ・木製品の良さを認識してもらい、将来的には小学校及び村児童施設の木質化を図っていききたい。

(3) 普及性

- ・山村留学生のほとんどが県外の子供であり、参観日等で多くの保護者にも見てもらえ、北相木産カラマツのPRには適している。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

- ・設置後、すぐに児童たちが興味を示し木製品への関心の高さがうかがえた。

(2) 課題

- ・小学生へのカラマツ製品の認知度は高まってきているが、村民への認知度が今一つ感じられず、今後の取り組みの課題である。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

小学校施設の充実を図りながら、多施設への普及も図っていききたい。

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

平成 30 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

北相木村

No.	事業項目	事業名
3	森林を支える豊かな地域づくり	森林環境教育推進事業(みどりの少年団ヘルメット購入)
事業費		135,000 円 (うち支援金: 95,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

主林木であるカラマツの林齢が、11 齢級(51 年生)以上が 1,696ha(69%)で更に 13 齢級(61 年生)以上では、517ha(21%)、6 齢級(30 年生)以下は、2.93ha(0.1%)と著しく偏った齢級構成となっており、次代へのカラマツ林の更新が大きな課題。

(2) 本事業の目的

次世代の林業の担い手となりうる子供たちが実際に林業を体験することにより、森林・林業への関心を高め、カラマツ林の更新について具体的な知識を持ってもらう。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 北相木村村有林

(2) 対象者 北相木小学校 4・5 年生(みどりの少年団)

(3) 実施方法

植栽・下刈などの林業体験及び高性能林業機械の操作体験

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~34 年度)

保育事業(植栽・下刈)、高性能林業機械体験を実施しているが規模を拡大していきたい。

高性能林業機械体験

②平成 30 年度実績 保育事業(植栽・下刈) 高性能林業機械体験



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

森の役割と大切さを学んでもらい、温もり感のある木の良さを感じながら木の生長と共に森づくりの大切さを体感してもらえた。

(2) 継続性

一連の作業を継続していくことにより、郷土の森の大切さを共有できる。

(3) 普及性

新聞等メディアに取り上げてもらうことにより、村の林業への取り組みを広く知ってもらえた。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

普段体験することの出来ない林業を体験することにより、森の役割・大切さを学ぶことができ、林業への関心も高められた。

(2) 課題

少年団活動が終わると、自分たちが手入れを行った山がどうなっているかわからなくなってしまうため、継続的に確認できるような広報活動を行っていきたい。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

林業体験に必要な物品を整備し、安心安全な林業体験をできるように取り組んでいきたい。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)